

ラムサール
COP11特集

ルーマニアでラムサール条約会議開催

全体報告——ラムネットJ事務局 富田 宏 / ラムネットJ共同代表 柏木 実



本会議の会場

Conference of contracting parties (以下COP) が催されました。

●ラムサール条約とCOP

ラムサール条約は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」として1971年に採択され、現在では湿地全般の保全や持続的な利用に関する包括的な内容を含んだ条約として認知されています。ラムサール条約

今年の夏、7月6日から13日までルーマニアの首都ブカレストで第11回ラムサール条約締約国会議 (Ramsar

は、「条約」という名のとおりに国際的な約束事に関する法律です。法律の実施に関する詳細を、ラムサール条約はおおよそ3年に一度開かれるCOPで話し合い、決議します。議決権を持つ正式メンバーは締約国ですが、ほかに地域の代表、NGO、研究者などもオブザーバーとして参加します。ラムネットJをはじめとしたNGOも、COPで大切な役割を担っています。

●COP11での会議やイベント

COPは、本会議、サイドイベント、展示ブース、エクスカージョンの4つのパートから成りまします。まず本会議では、条約の決議について話し合われます。主に各締約国の政府代表の方々が中心となって協議を進めますが、NGOもオブザーバーとして本会議の議事に関わります。今回の本会議では、22の決議案について話し合いが行われました。日本の湿地環境の保全に関心を持つ私たちにとても重要な決議案を一つだけ挙げるのであれば、それは「決議案XV.15 農業と湿地の相互作用・水田と害虫抑制」だと思います (呉地さんの記事参照)。私たちラムネットJも作成に深く関わった「水田の生物多様性向上レポート」の報告書名が決議文に記されました。また、本会議で主な役割を担う日本政府代表の担当の方々の一生懸命な姿は私たちを感激させるものでした。それとともに、私たち



サイドイベントでラムサール条約湿地の登録認定証を受け取った各自治体の首長やNGO

NGOがオブザーバーとして議場の内外で各国の政府代表やNGOの方々と情報や意見の交換をすることで決議文が大きく変わるといふNGOの役割の重要性を再認識しました。

サイドイベントでは、締約国やNGOが主体となってプレゼンテーション・セッションや会議が行われます。毎日昼休みと夕方に2時間ずつ時間が設けられました。今回のCOPで一番盛況だったサイドイベントの一つが、日本の環境省とバードライフアジアが共催した「ラムサール条約にもとづく国際的に重要な湿地」の登録認定証の授与式でした。授与式には会場に入りきれないくらいの参加者があり、新たに日本から登録された9か所の湿地 (花輪さんの記事参照) を有する地域の代表に、認定証が手渡されました。展示ブースでは、政府やNGOから湿地保全に関わるいろいろな

展示がありました。53のブース枠のうち19枠が日本の団体の展示でした。私たちラムネットJも、湿地のグリーンウェイブ、世界的な絶滅危惧種であるヘラシギの保全、渡良瀬遊水地のラムサール登録についてポスターを展示しました。展示ブースにいるときは、訪ねてくる方々と湿地保全に関する議論や情報の交換をしたり、一緒に折り紙を折ったりと、有意義な時間を過ごせました。

そして、エクスカージョンでは、開催地ルーマニアを代表するラムサールサイト、ドナウデルタを中心としたツアーが組まれていました (高際さんの記事参照)。

●COP11に参加しての感想

最後に、私個人の感想です。私たちがCOP11で行ったなら、自分とは「COPに行ったら、自分が強い関心をもっている「問題」とラムサール条約の議論の接点を見つけて掘り下げることが大事」だということだと思います。先述のとおりラムサール条約は広範な内容を包み、COPに参加する方々の目的もいろいろです。その渦中において、「自分の関心との接点」という視点から情報を整理することで、自分とCOPとの距離が近くなったように思います。また反対に「この人(グループ)の関心がある問題は何かだろうか?」と、接点を見つけていく発表や展示もあったように思います。もしCOP12に参加することがあったら、自分の関

(前ページから続く)
心との接点」という視点から、問題意識が伝わる展示」と議論に踏み込んだ視点」をつくりたいと思います。

(以上、富田 宏)

●若い世代が現地で活躍

今回、ラムネットJのスタッフとして富田さんのほか、山口真由里さん、宇田川飛鳥さんという3人の若い世代が参加し、大活躍してくださいました。私が初めて参加した1996年のCOP6で、世界のNGOの目を見張る活躍に衝撃を受けました。各国の草の根NGOの声をもつとさちんと世界に届けよう、と話し合った仲間たちの思いから2008年のCOPで「世界湿地ネットワーク」が生まれ、今回は湿地グローバル賞、開閉会式での公式コメントに繋がりました。富田さんの関心と条約の議論との接点の掘り下げが、そして、山口さん、宇田川さんの受けたものの育つ様子を見守っていただきたいと思います。

(以上、柏木 実)



ラムネットJの展示ブースで説明する山口さん(左)と富田さん(右)

ラムサールCOP11での水田関連の活動

ラムネットJ共同代表
水田部会
水田部会

水田関連の活動は次の3つに分けられます。

1 ポスターブース

ラムネットJ構成団体のNPO 田んぼと(株)アレフが展示を行いました。NPO 田んぼは、田んぼの生物多様性をアピールし、それに関する資料の展示配布も行って、参加者の関心を惹きました。(株)アレフは、アレフ自身のふゆみずたんぼの取り組みや、社員合作の「ふゆみずタンゴ」の歌と踊りも披露しました。



ポスターブース (アレフふゆみずたんぼプロジェクト)

2 サイドイベント

7月7日の夕方に、韓国水田湿地ネットワークと共催し、日本国環境省と農水省、FAO、JICAの後援を得て、「湿地生態系としての水田の生物多様性向上」を開催しました。70名余りが



サイドイベント (水田の生物多様性向上)

参加し、日韓以外に、ヨーロッパ、アフリカ、南米、中東からの参加者もあり、生物多様性の向上に配慮した農法が、持続可能な水田農業に不可欠であることを確認しました。また、ラムネットJが環境省から委託されCOP11用に作成した、「日韓及びアジア諸国における水田生態系の生物多様性向上優良事例・COP11報告書」のお披露目も行いました。報告書(687頁)のファイル入りCDを参加者に配布しましたが、EU関係者からは高い評価を受け、決議文にこの報告書が盛り込まれる契機になりました。

3 本会議での、水田関連決議 (XI.15) に関する活動

今回の最大の課題は、条約事務

局STRP (科学技術検討委員会) が提案した、決議案XI.15「水田と殺虫剤使用」でした。当初案は生物多様性の視点を全く欠き、手続きにも問題が多く、COP10で日韓共同で提案し、採択された決議X.31(水田の生物多様性の向上)の理念を著しく損なう恐れがあるものでした。それに対して私たちはその取り下げや根本的な修正を求める活動とその支援をCOP11前から行ってきました。本会議ではまずSTRPから決議XI.15の趣旨説明がありました。提案した委員はCOP11への参加が拒否され、その代わりに委員会副議長が行うという異例の出来事もありました。その後、この決議案に対して日本政府を含め、15の国から大幅な修正を求める意見が出されました。意見の多くは日本政府の考えと重なるもので、これ

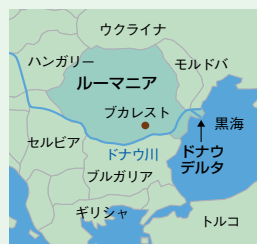
とは別にEUは、独自のドラフトも提案しました。これらの大幅な修正作業を経て、決議のタイトルも、「水田と殺虫剤使用」から「水田と害虫抑制」に変わり、内容も全面的に修正され、納得がいく「別の決議」に生まれ変わり、その中に私たちの報告書名が、盛り込まれるという予期せぬうれしい出来事もありました。

ドナウデルタの旅

渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会
高際澄雄

どこまでも続くヤナギの森。その切れ目に出現する力強いヨシの群生。飛び交う鳥たち。抜けるような青空と白い雲。そして豊かな水流。ドナウデルタは私に湿地の限らない魅力を教えてくれました。

ラムサール条約COP11に参加するためにルーマニアを訪れた私たち「渡良瀬遊水池をラム



ラムネットJが委託を受け作成した水田レポート(右)と、それが引用された決議案XI.15(左)

COP11で新たに登録された日本の条約湿地

ラムネットJ共同代表 花輪伸一



中池見湿地

COP11では、新たに9か所の登録地が追加され、これで日本のラムサール条約湿地は合計46か所となった。今回の登録で注目されるのは、まず、渡良瀬遊水地（栃木・群馬、茨城、埼玉の4県）と円山川下流域・周辺水田（兵庫県豊岡市）である。この2か所は、鳥獣法だけでなく河川法も保全の担保として使われている。環境省に加えて国交省も大きく関与していることから、将来は他の地域でも重要な河川域や河口域の登録が進むことが期待される。

また、渡良瀬遊水地では20数年におよぶ環境団体の活動があり、豊岡市では行政と市民が一体となってコウノトリの野生復帰に取り

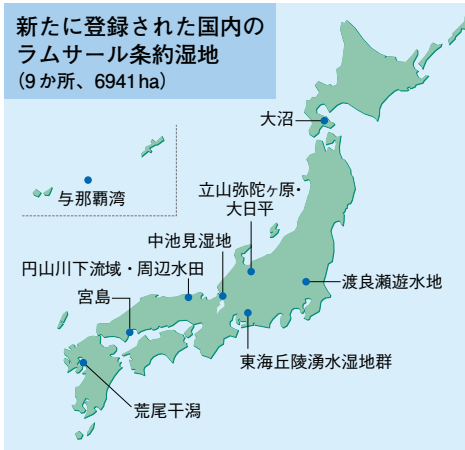
組んでいる。このような地域に根ざした活動の成果という意味でも注目される。同様に、かつてはLNG基地として埋め立ての危機にあった中池見湿地（福井県敦賀市）も、市民運動の成果で保全が決まり、今回登録に到ったことは特記できる。

浅海域が広がる有明海では、荒尾干潟（熊本県荒尾市）が登録された。有明海最初の条約湿地である。環境NGOによる渡り鳥フライウェイ・ネットワークへの参加呼びかけに市役所が応じ、それがラムサール登録に発展した。荒尾干潟は漁業生産の場として重要であり、条約登録を生かして地域振興と有明海の再生に役立つような施策の展開が期待される。矢並湿地など東海丘陵湧水湿地（愛知県豊田市）は里山の小さな湿地であり、特有の植生が見られる貴重な場所である。これもNGOの活動の成果である。

今回の登録地は9か所とあまり多くはなかったが、北海道（大沼）から沖縄（与



荒尾干潟のオオソリハシシギ
写真提供：西村誠さん



新たに登録された国内のラムサール条約湿地 (9か所、6941ha)

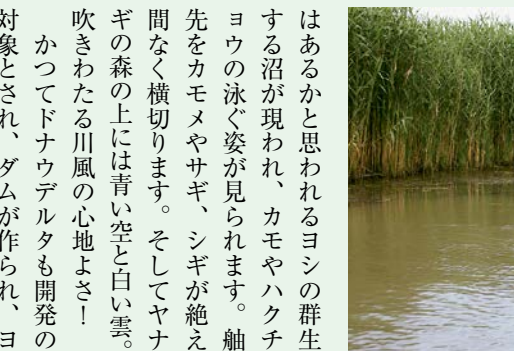
那覇湾)までおよび、高山の雪田草原（立山弥陀ヶ原・大日平）、瀬戸内海（宮島）が含まれるなど広範囲である。今後は、これらの登録地では、住民参加の下に保護管理計画が立てられ、賢い利用が行われることが必要である。さらに、環境省の「潜在候補地リスト」の中から、また、このリストには入っていないけれども、緊急に保全が必要な湿地については登録を急ぐべきである。



東海丘陵湧水湿地群（恩真寺湿地）のシデコブシ 写真提供：（公財）日本野鳥の会



「サール条約登録地にする会」の8人は、スケジュールをやりくりして、泡瀬、諫早、藤前などの方々と、ドナウデルタ・ツアーに参加することになりました。当初、綱渡りのようなスケジュールを危ぶみましたが、参加して本当によかった。湿地のありようを学ぶことができたからです。ドナウデルタ・クルーズはトルチャという町の波止場から始まりました。最初の30分は、本流を航行していたので、風景を見る気になれませんでした。ところが支流に入って景色が一変しました。川岸にヤナギが迫り、サギが水辺で魚を狙っています。「ペリカン！」と船長の声。みんなで見上げると、30羽ほどのペリカンが大きな翼を広げ、青空を舞っています。岸辺にはオハグロトンボに似た、金属光沢のトンボが、キラキラ光りながら飛び交っています。ヤナギ林が切れると、3メートル



はあるかと思われるヨシの群生する沼が現われ、カモやハクチヨウの泳ぐ姿が見られます。舳先をカモメやサギ、シギが絶えず間なく横切ります。そしてヤナギの森の上には青い空と白い雲。吹きわたる川風の心地よさ！

かつてドナウデルタも開発の対象とされ、ダムが作られ、ヨシの群生が破壊されたそうですが、湿地の保全に取り組み、ゴミの投棄を厳しく禁じているため、人の出すゴミがほとんど見られません。これが心地よさの最大の原因でしょう。

広いと思っていた渡良瀬遊水地もドナウデルタの120分の1で、水量も比べるべくもありません。しかし昔そこには広大な沼がいくつもあったのです。時間をかけて徐々に昔にもどさなければならぬ、と強く感じた旅でした。



2011年度 会計収支計算書 (単位:円)

経常収入の部	
会費収入	852,000
事業収入	955,000
補助金等収入	5,500,600
寄付金収入	1,621,100
その他の収入	
雑収入	330,457
利息収入	516
その他の事業会計からの繰入	0
経常収入合計	9,259,673

経常支出の部	
1 事業費	
調査研究事業費	2,263,749
保全・再生事業費	875,816
普及・啓発事業費	3,396,751
国際協力事業費	1,182,613
ネットワーク推進事業費	163,800
事業費計	7,882,729
2 管理費	
役員報酬	0
給料手当	0
什器備品費	10,309
旅費交通費	119,210
事務所費	410,000
業務委託費	360,000
消耗品費	990
通信運搬費	212,344
印刷費	20,520
会議費	38,900
支払手数料	23,819
租税公課	700
諸会費	57,415
雑費	30,961
管理費計	1,285,168
経常支出合計	9,167,897

経常収支差額	91,776
当期収支差額	91,776
前期繰越収支差額	1,222,303
次期繰越収支差額	1,314,079

※2011年4月1日から2012年3月31日まで

2011年度の事業費の主な内容

- 調査研究事業費
 - ・ヘラシギ調査活動(ミャンマーなど)
- 保全・再生事業
 - ・東日本大震災義援金の募集
 - ・水田保全のための国際シンポ(韓国)
- 普及・啓発事業費
 - ・シンポジウム(沖縄、渡良瀬遊水地)
 - ・湿地のグリーンウェイブ2012
- 国際協力事業費
 - ・日韓NGO湿地フォーラム(韓国)
- ネットワーク推進事業費
 - ・ラムネットJニュースレター発行

ラムサール・ネットワーク日本
2012年総会報告

ラムネットJでは2012年の通常総会を6月17日に東京の港勤労福祉会館で開催し、2011年度の事業報告と収支決算、2012年度の事業計画と収支予算、役員人事が承認されました。会計収支は左表の通りです。その他の総会議事については、議案書をウェブサイトに掲載していますのでご参照ください。

湿地のグリーンウェイブ2012 & ラムサールCOP11 報告会

スポットから流域へ～湿地がつなぐ自然と人々～
吉野川をラムサール登録地に!!

- 日 時: 2012年10月20日(土) 13:00～17:30(開場12:30)
- 会 場: アスティ徳島 第6会議室(徳島市) <http://www.asty-tokushima.jp/koutsuu/>
- 主 催: ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) ●参加費: 500円(資料代)
- 共 催: 湿地のグリーンウェイブ2012吉野川実行委員会
(構成団体) 里山の風景をつくる会/吉野川ラムサールネットワーク/とくしま自然観察の会/徳島子ども劇場/川塾/徳島県自然保護協会/よしがわ探検隊

第1部では湿地のグリーンウェイブ2012に関連して、三番瀬の立花一見さんや、徳島の参加団体などが地元での湿地保全活動について報告。第2部では、浅野正富さんが渡良瀬遊水地、豊岡市コウノトリ共生課の坂本成彦さんが円山川下流域のラムサール登録について報告します。第3部では吉野川の湿地保全についてディスカッションを行います。詳しくはラムネットJのウェブサイト (<http://www.ramnet-j.org/>) をご覧ください。

事務所移転のご案内

ラムネットJは10月1日に事務所を移転しました。新しい事務所の所在地は次の通りです。最寄り駅は秋葉原駅になります。電話番号の変更はありません。

〒110-0016

東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3F(B号室)

ラムサールCOP11のための特別協賛金へのご協力ありがとうございました!

6月末までに、総額399,000円の協賛金が集まり、ラムサールCOP11での展示・配布物の翻訳費や印刷費、スタッフの渡航費の一部などに充てさせていただきました。

★協賛金にご協力いただいた方(敬称略、五十音順) 荒井剛/池田愛美/小沢秀造/加賀谷球貴/加藤健/金井裕/楠道昭/小林重信/陣内隆之/武田隆雄/田中栄一/新妻香織/松原秀臣/水野敦子/山城一純/山田七緒子/山本英司/山本哲江/吉里伸/和田素子/そのほか多くの匿名希望のみなさま

ラムサール・ネットワーク日本 会員募集!!

ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)の活動は、会員の皆様からの会費や、カンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター(一般賛助会員)になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保護にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。そのほか、団体や企業としての入会も可能です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

会員の特典

機関誌「ラムネットJニュースレター」を送付するほか、会員限定のメーリングリストに参加できます。ラムネットJが主催する催しの参加費が割引になる場合もあります。

入会申込方法

●郵便振替 郵便振替用紙(払込取扱票)の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。一般銀行から振り込む場合は(払込取扱票への記入ができませんので)振り込み後に上記の申込事項をEメール、FAX、郵便等で右記の事務局までお知らせください。

●ウェブサイト 一般賛助会員、一般正会員はウェブサイトからオンラインでの入会も可能です。<http://www.ramnet-j.org/join.html>にアクセスし、「入会申込フォーム」に記入して送信してください。年会費は郵便振替でご送金いただくか、ペイパルを使ってオンラインで決済することも可能です(クレジットカードも使用できます)。

振込先

ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
(一般銀行から) ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店
当座預金 0765702 ラムサール ネットワークニホン

会員種別と入会申込金(年会費)

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

年会費(入会金)

年会費は毎年4月から翌年3月までの1年分です。入会初年度は、年度途中の入会でも入会金として1年分の会費をいただきます。2～3月に入会の場合、初年度の年会費(入会金)は無料となり、4月からの次年度の年会費としていただきます。

事務局

NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11
青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566
Eメール info@ramnet-j.org